

主
工
房



「京もの担い手育成事業」
インターンシッププログラム

京印章

河政印房

河合良彦 様
河合祥子 様

2025年9月～2025年11月

上記期間に工房見学と合計4回のワークショップを実施
一対面開催2回・オンライン開催3回



「京もの担い手育成事業」

主催 | 京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

企画・運営 | ようび
コーディネーター | 大島 正幸 (ようび 代表取締役)



河政印房

事業内容

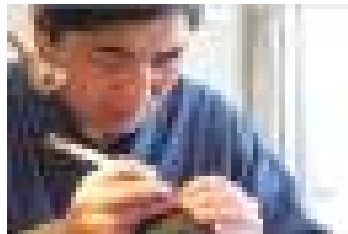
実印・銀行印・認印・ゴム印・落款印の制作・販売
印刷（名刺・挨拶状・年賀状など）

河政印房について

京都・丸太町にて昭和 21 年に創業、河合良彦様は三代目店主です。奥様の河合祥子様、ご子息の河合幸之助様の 3 人河政印房を営んでいます。

良彦様も祥子様も 1 級印章彫刻技師（木口・ゴム印）であり、個人用から法人用、木のはんこから牛角のはんこまで、様々な種類のはんこを制作されています。

2025 年 3 月には石のはんこの篆刻体験ができる「京都篆刻体験 かわまさ」をオープンし、人々にはんこの魅力を伝えています。



プログラムの流れ

day1, day2

● 工房見学

ワーク

河政印房についてインプット&ヒアリング



● リテラシー教育

講義

AI について

現代社会で必要とされる
リテラシーに関する講義



● 現状分析

河合良彦様・河合祥子様のプレゼンテーション

河政印房の事業について

ワーク

事業の現状ヒアリング

ワーク

事業の強みと課題の言語化

設定された課題 | 発信力が弱い



day3

● リテラシー教育

講義

なぜ発信力が必要なのか

講義

これからの発信と認知について



day4, day5

● 課題解決のための アクションプラン案 の検討

ワーク

発信内容のタイトルと説明を考えて、
たくさんアイデアを出す

ワーク

体験や没入感のある具体的な発信内容を考える

ワーク

体験や没入感のある具体的な発信内容をさらに深掘る

ワーク

体験や没入感のある具体的な発信内容の企画書をつくる



● 事業者様とインターン生の 今後のつながりをつくる

ワーク

今後の繋がりをつくる





課題を分析

工房見学 河政印房についてヒアリング

河政印房の事業についてインターン生に理解を深めてもらうために、グループに分かれて工房見学を実施しました。

その後、さらに河政印房や京印章に関する知識をインプットしてもらうために、別会場にて河合良彦様・河合祥子様からインターン生に事業に関するプレゼンテーションをしていただきました。

プレゼンテーションでは、事業の歴史や特徴、商品の説明、現在の取り組みについて説明していただきました。

はんこが細かく緻密に一定の深さで彫られていて、とても美しかったです。
素材によって彫り方や道具を使い分けられていたのが印象的でした。

ワーク① 河合良彦様・河合祥子様への現状ヒアリング

河政印房が抱える課題を分析するために、インターン生は工房見学と河合良彦様・河合祥子様のプレゼンテーションで得た知識をもとに、事業の現状について河合良彦様・河合祥子様にヒアリングを行いました。



<インターン生から出た質問項目>

- 業界全体の現状
- どのような媒体で商品を認知している顧客が多いか
- 現在の商品の PR 方法
- 技術を身につけるために必要な期間
- 今後の展望 等

職人さんの強みや現状を第三者の目で整理することで、外から見て魅力として伝えられる部分や課題点が明確になると学びました。

ワーク② 課題の言語化と設定

河合良彦様・河合祥子様のプレゼンテーションやヒアリング結果をもとに、インターン生は河政印房の事業の課題を分析し、言語化しました。

プログラムで設定された課題

発信力が弱い



アクションプランの提案

ワーク① 体験や没入感のある具体的な発信内容を考える

現代は既にたくさんのコンテンツがあふれているため、インターン生には、SNS など既に河政印房さんが取り組まれている手法ではなく、体験や没入感のある「展示会」「ツアー」「ワークショップ」「新商品」のジャンルに分かれて、発信内容のアイデアを考えてもらいました。

<発信内容のアイデア>

展示会	・ハンコで脱出ゲーム、ハンコの中に入ろう(迷路案) ・ハンコの素材研究所(素材展)	など
ツアー	・河政印房と歩く篆刻の旅 ~ハンコを重ねるアートの世界~ ・手彫り印を巡る御朱印ツアー ~職人技が宿る本物の篆刻の世界~	など
ワークショップ	・創作漢字を綺麗に押そうコンテスト ・使わないものをハンコにするワークショップ	など
新商品	・河合の部屋~相談のスペシャリスト~ ・お任せハンコ	など

この4つの案をさらに具体的に深掘ることに決定!

ワーク② 体験や没入感のある具体的な発信内容をさらに深掘る

ワーク1で出たアイデアから、各ジャンルそれぞれ1つ深掘るアイデアを決め、企画背景やターゲット、詳細な内容など、発信内容をさらに具体的に考えました。

ワーク③ 体験や没入感のある具体的な発信内容の企画書をつくる

ワーク2で深掘したアイデアの企画書を作成し、発信内容の詳細な部分を考えました。

<ターゲットのペルソナ>

※ペルソナとは：サービス・商品の典型的なユーザー像のこと

名前 遠藤たかき 性別 男性 年齢 32歳

職業 独立したデザイナー 性格 知的好奇心旺盛、凝り性

年収 400万 関心事 仕事に新しい感性を取り入れたい

家族構成 独身(婚約者がいる) 主な情報源 Instagram、X、TikTok、Facebook

価値観 いいものを長く使う

よくある購買動機 デザインにひとめぼれ

多くの人に河政印房を知ってもらえるような、発信内容の企画書を作成!



タイトル	十字十色 - 河政印房が伝えるハンコの魅力 -
コンセプト	あなたをうつす一字を創る
ワークショップの流れ	部首パーツ、つくりパーツなどさまざまなパーツが彫られたハンコを使って創作漢字を実際に作ってもらえる。
工夫する仕掛け	部首だけや、文字パーツだけのハンコを使って文字を作るので、パズルのような感覚で作ることができる。そのため縮尺を変えられる通常の創作漢字とは異なる体験ができる。

チームのメンバーと意見を出しあい、かけ合わせることで、自分だけでは生み出せなかった斬新なアイデアを出すことができとても楽しかったです。



プログラムを終えて



河政印房
河合良彦様

自分たちの事を多くの人が考えてくれるという事が初めてだったので、**とても刺激が多かったです。**

先日、インターン生の方が「**今回のワークで考えた企画を完成させませんか**」とお声掛けしてくれたので、**やってみたい**と思います。

このプログラムで**SNSなど発信が課題だと気づくことができました。**

今までフワッとしてきていた販売や体験の発信などをこれからは分析して、**皆さんが考えて下さったことも意識しながら発信していこう**と思いました。



河政印房
河合祥子様

「はんこ」というひとつの伝統工芸品の中に、職人さんがどんな想いを持っていて、お客さんにどんな体験や思い出を作りたいのかなど、**河政印房さんが大切にしているひとつの軸のようなものを聞くことができ、このプログラムに参加してよかった**と思いました。



インターン生
大学3年生



インターン生
大学1年生

最初はグループワークに戸惑っていましたが、**最後のグループワークでは、積極的に発言できるようになり、貴重な体験ができました。**

大学では専門的なことしか学ぶ機会がなかったのですが、このプログラムで**社会の状況を客観的に知ることができ、自分のためになった**と感じました。

商品の魅力を多くの人に認知してもらうにはどうしたらよいか、という課題は自分自身の分野でも共通しているため、**自分事として取り組みました。**

認知を高めるためのアプローチ方法を学ぶことができ、**成果にとっても満足しました。**満足するだけでなく、**自分自身への転用も考えていきます。**



伝統産業職人の
参加者